

ふくしま復興のあゆみ

<第14版>



福島県の被害状況①（地震・津波被害等）



平成23年3月11日14:46に三陸沖を震源として発生した「平成23年 東北地方太平洋沖地震」は、M9.0を記録し、観測史上最大の地震でした。
最大震度7を記録した激しい揺れとともに、広い範囲で大津波が押し寄せました。

地震・津波による被害状況

<被害状況>（平成28年2月1日現在）

◆死者：3,841人（うち、震災関連死：2,013人※1）

◆行方不明者：3人※2

※1 震災関連死とは、地震などの直接的な被害によるものではなく、その後の避難生活での体調悪化や過労など間接的な原因で死亡すること。

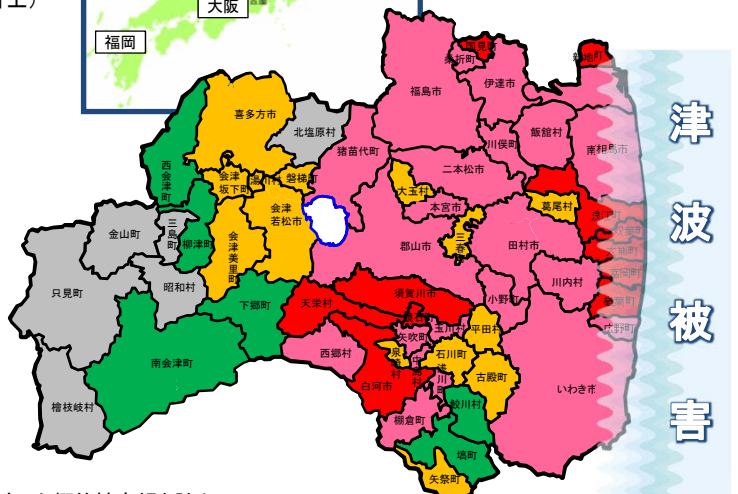
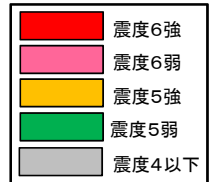
※2 実際の行方不明者227人のうち、224人は死亡届を提出済（死者に計上）



津波に襲われる四倉湾



重機を使い捜索活動を行う警察職員（相馬市）



津波被害

<被害額>（平成24年3月23日現在）

公共土木施設被害報告額	約3,162億円
農林水産施設被害報告額	約2,453億円
文教施設被害報告額	約379億円
公共施設被害報告額総額	約5,994億円

※県所管分：福島第一原子力発電所から30km圏内は、航空写真等により推定した概算被害額を計上。

※市町村所管分：南相馬市の一部及び双葉8町村の概算被害額は含まれていない。

【出典】福島県東日本大震災復旧・復興本部県土整備班



海岸

いわき市の海岸



農林水産施設

八沢排水機場（相馬市）



道路

県道白河羽鳥線



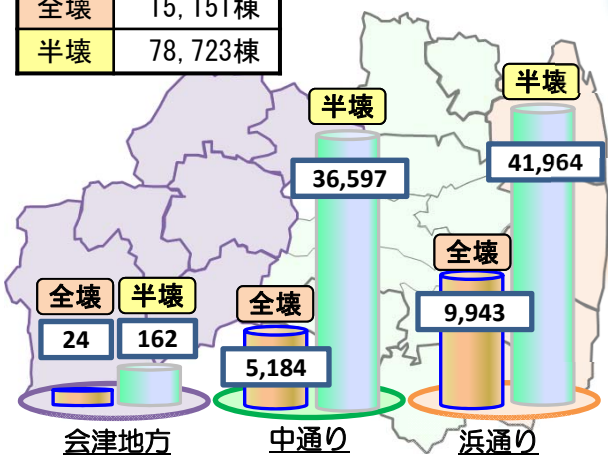
文教施設

県立岩瀬農業高校（鏡石町）

家屋被害の状況 <地域別>

（平成28年2月1日現在）

全壊	15,151棟
半壊	78,723棟



基大な津波被害

家屋被害の状況（浪江町請戸地区）

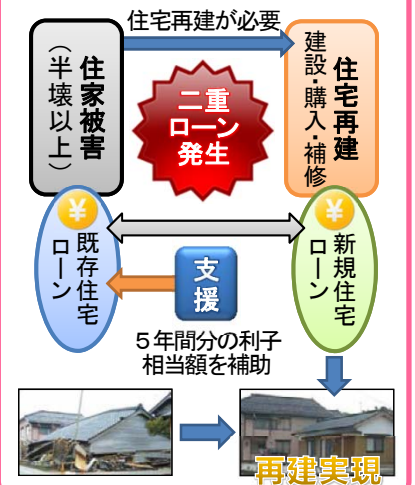


内陸部も大きな被害

家屋被害の状況（福島市伏拝地内）

【参考】県の住宅二重ローン対策

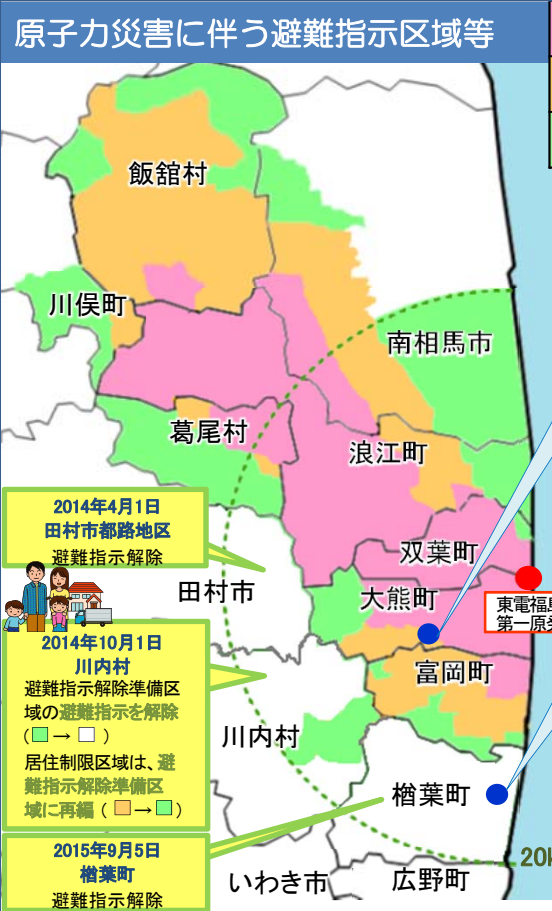
一被災された方々の住まいの再建・確保を支援一



福島県の被害状況②（避難状況等）



避難者数は、平成24年5月の16万4,865人をピークに減少を続け、平成27年12月には10万人を下回りましたが、まだ多くの方々が避難を続けておられます。平成27年6月に政府から、平成29年3月までに帰還困難区域を除いた全ての区域の避難指示を解除し、帰還を可能にしていけるよう復旧加速に取り組む指針が示されました。帰還に向けた動きが徐々に始まっています。



帰還困難区域	放射線量が非常に高いレベルにあることから、バリケードなど物理的な防護措置を実施し、避難を求めている区域。
居住制限区域	将来的に住民の方が帰還し、コミュニティを再建することを目指して、除染を計画的に実施するとともに、早期の復旧が不可欠な基盤施設の復旧を目指す区域。
避難指示解除準備区域	復旧・復興のための支援策を迅速に実施し、住民の方が帰還できるための環境整備を目指す区域。

◆メガソーラー発電所が運転開始、大熊町

大熊町の復興拠点・大川原地区に「大熊町ふるさと再興メガソーラー発電所」が完成し、平成27年12月18日から運転を開始しました。
年間発電量は約2,200MWhで約600世帯分に相当。売電収入の一部を、大熊町が大川原地区に建設予定の植物工場の運営に活用します。

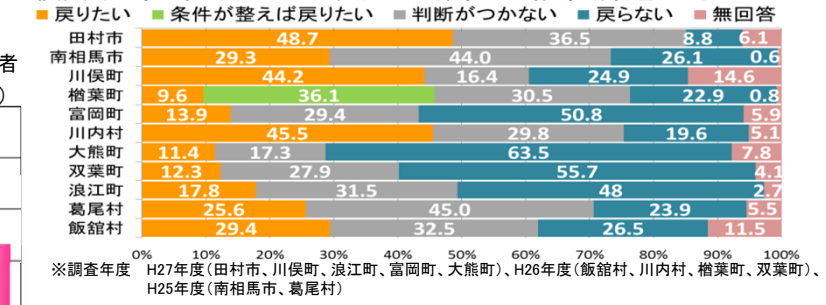


◆ふたば復興診療所「ふたばリカレ」が2月1日に診療開始、楡葉町

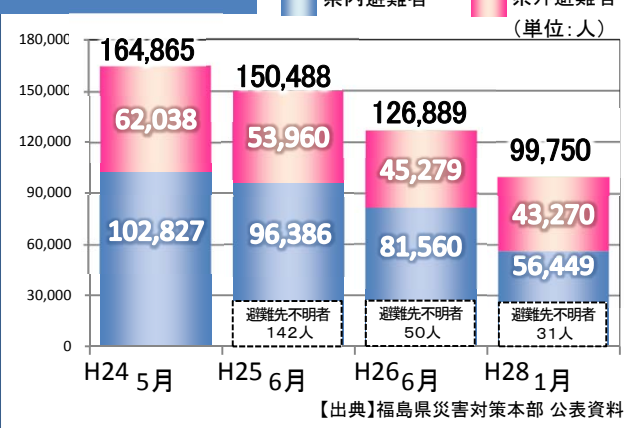
平成28年2月1日、双葉郡の復興及び住民の帰還に向けた環境を整えるため、県立大野病院附属ふたば復興診療所「ふたばリカレ」が楡葉町において診療を開始しました。



◆復興庁・県・市町村による住民意向調査の結果（帰還意向）



避難者の推移



福島県の人口推移

	世帯数 (単位:世帯)	人口 (単位:人)		
		男性	女性	増減
平成23年3月1日	721,535	2,024,401	982,427	1,041,974
平成28年1月1日	737,773	1,911,500	944,331	967,169
増減	16,238	▲ 112,901	▲ 38,096	▲ 74,805

【出典】福島県の推計人口(福島県現住人口調査月報)

【参考】子どもの避難者(18歳未満避難者)の状況

避難先別	県内	避難元市町村内	避難元市町村外	県外	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	増減数 (D)-(A)
					10月1日現在 (A)	10月1日現在 (B)	10月1日現在 (C)	10月1日現在 (D)	
18歳未満避難者数					30,968	27,617	24,873	22,660	▲ 8,308
避難先別					3,307	3,226	2,813	2,716	▲ 1,895
県外					16,970	14,149	12,436	10,557	▲ 6,413

【出典】福島県子ども・青少年政策課調べ

被災者の生活再建



現在、避難者や被災者の居住の安定を図るため、「復興公営住宅」の整備を進めています。原子力災害に伴う避難者向けの復興公営住宅については、県が主体となり、全体で4,890戸整備する予定です。

住環境の再建

<被災者の住環境>

応急仮設住宅管理状況	16,347戸(このうち入居戸数は9,916戸) (H28.1.14現在)
借上住宅支援状況	14,596戸(一般521戸、特例14,075戸) (H28.1.14現在) ※数値は県内の状況のみ
住宅再建状況	20,074件(進捗率64.1%) (H27.12.28現在) (被災者生活再建支援制度における加算支援金申請件数20,074件 / 基礎支援金申請件数31,339件)

応急仮設住宅の供与と新たな支援

避難指示区域からの避難者への平成29年4月1日以降の供与は今後判断します。



※避難指示区域以外からの避難者への供与は平成29年3月末で終了し、その後は新たな支援策に移行します。

<復興公営住宅等の整備状況> (平成27年12月31日現在)

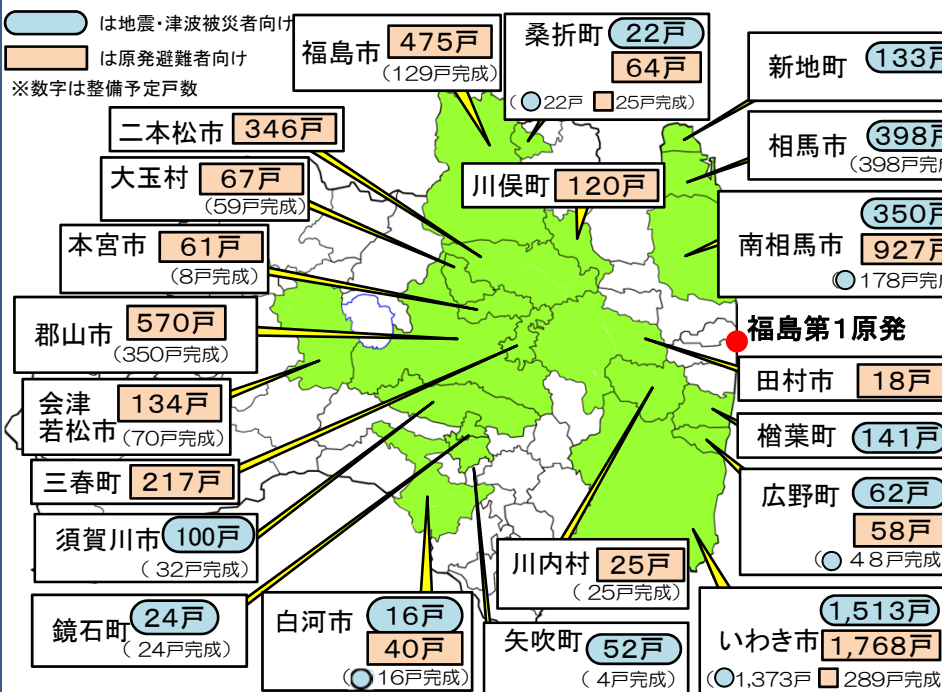
区分	整備予定	完成戸数
地震・津波被災者向け	11市町で計2,811戸を整備予定。	2,198戸
原発避難者向け	県が主体となり、全体で4,890戸整備予定。	955戸

復興公営住宅 関船団地(いわき市)



H28.1
入居開始

民間事業者が建設し、県が買い取る方式で整備期間を短縮。



復興牧場から生乳を初出荷! (H27.12.15)

相双地域の酪農家5人が共同経営する復興牧場「フェリスラテ」から生乳が初めて出荷されました。大規模共同経営による収益力強化や労働環境の向上など、本県の酪農復興のモデルとなることが期待されます。



被災者の安全を守る警察活動

震災発生以降、全国から多くの警察官の応援も受け(ウルトラ警察隊)、仮設住宅・復興公営住宅等への巡回連絡や被災地のパトロールなど、避難者・帰還者の安全を守るための活動を続けています。



避難者へのきめ細かな支援

帰還支援アプリ 始動

避難元や近隣市町村での‘生活’に役立つ情報発信を開始しました。

H27.11.6~ 帰還支援アプリ

避難地域や自主避難者の多い市町村の住民の方へ、スマホアプリが役立つことの情報発信を支援します。

避難者の見守り活動等

県内28の市町村社会福祉協議会等に生活支援相談員等285人を配置(H27.12.1現在)。

高齢者の見守りや孤立の防止に加え、生活再建や放射線等を含めた健康に対する不安軽減のため、リスコミュニケーションにも対応。



避難者向け情報誌提供

広報誌や地元紙のダイジェスト版を送付しているほか、福島県の復興に向けた取組や避難先での交流会等の支援情報を盛り込んだ「ふくしまの今が分かる新聞」を発行し、県内外の自治体やNPO等の協力のもと提供。



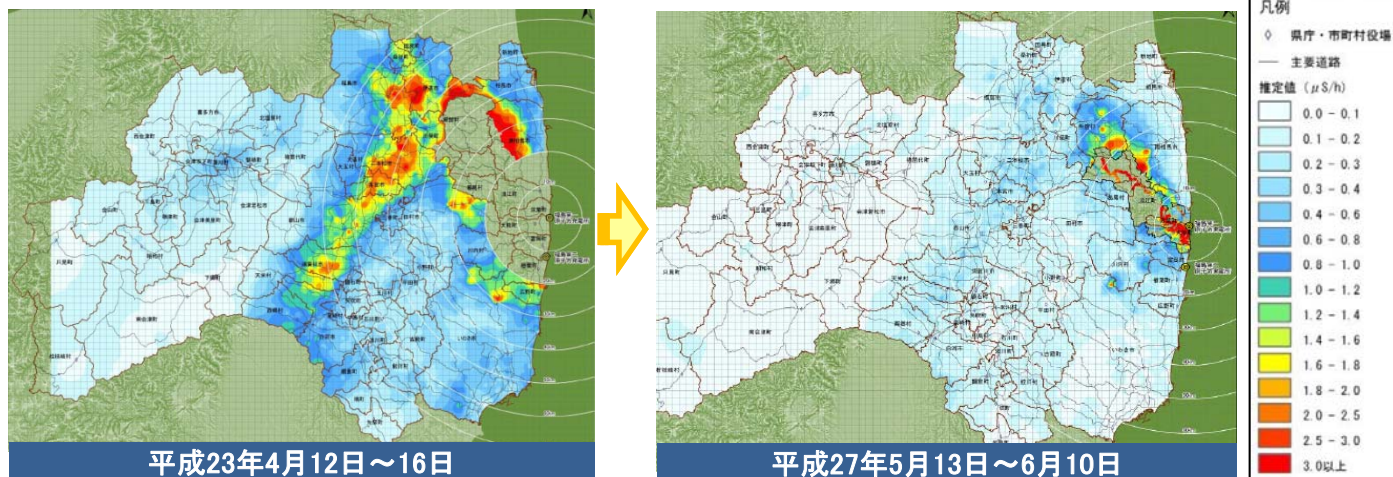


県内の空間放射線量は、平成23年4月時点に比べ、大幅に減少してきています。また、住宅などの除染が着実に進んできています。

福島県内の空間放射線量の推移

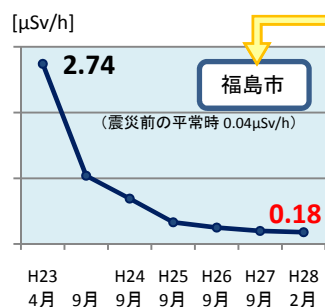
※帰還困難区域で走行サーベイを実施

◆福島県環境放射線モニタリング・メッシュ調査結果に基づく福島県全域の空間線量率マップ



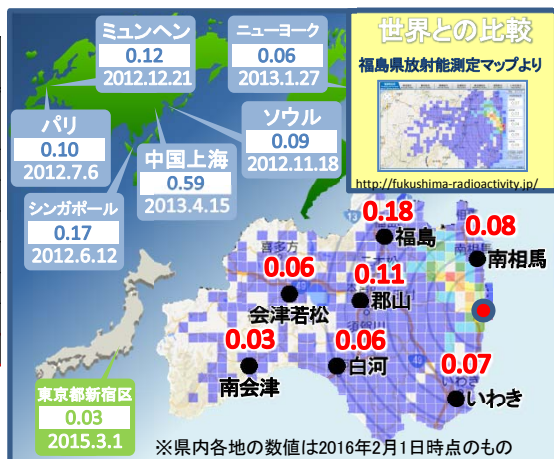
◆放射線量の推移

(単位: $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト/毎時))



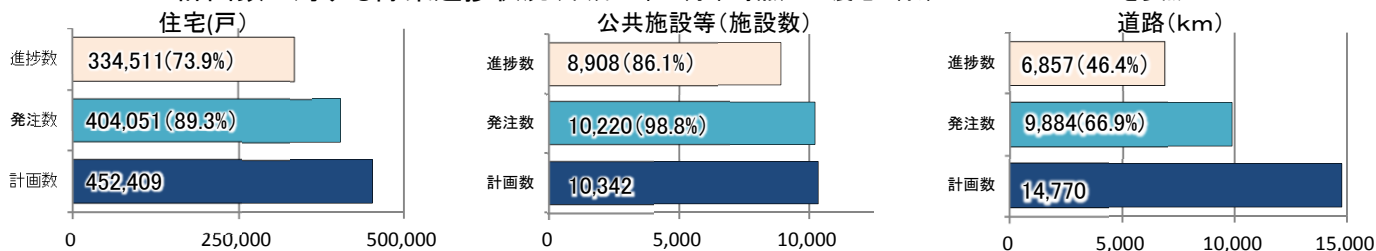
	福島市	会津若松市	いわき市
震災前の平常時	0.04	0.04 ~ 0.05	0.05 ~ 0.06
平成23年4月	2.74	0.24	0.66
9月	1.04	0.13	0.18
平成24年3月	0.63	0.10	0.17
9月	0.69	0.10	0.10
平成25年3月	0.46	0.07	0.09
9月	0.33	0.07	0.09
平成28年2月	0.18	0.06	0.07

【出典】福島県災害対策本部(暫定値)



市町村除染地域における除染実施状況

計画数に対する除染進捗状況 (平成27年12月末時点) ※農地の除染については10ページを参照



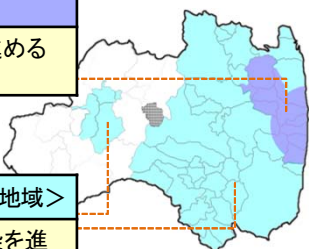
※計画数については、今後の精査により変更されることがあります。

国が除染<除染特別地域>

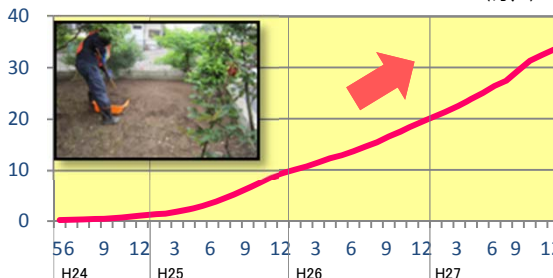
国が除染実施計画を策定し、除染を進める地域 (11市町村)

市町村等が除染<汚染状況重点調査地域>

市町村が除染実施計画を策定し、除染を進める地域 (39市町村)



【参考】住宅除染の進捗数(累計)の推移 (万戸)



住宅などの除染が着実に進んでいます！



災害廃棄物等の処理

◆災害廃棄物の処理状況 (平成27年11月末現在)(単位:千トン)

方部	発生見込量	仮置場搬入量	処理・処分量
浜通り	2,626	2,521 (96.0%)	2,019 (76.9%)
中通り	1,042	1,040 (99.8%)	1,040 (99.8%)
会津	19	19 (100.0%)	19 (100.0%)
合計	3,687	3,580 (97.1%)	3,078 (83.5%)

【出典】福島県一般廃棄物課調べ

災害廃棄物処理の様子



浪江町仮設焼却炉



◆汚染廃棄物の保管状況

	保管量(トン)
下水污泥等	約75,700(平成25年9月20日)
	約43,000(平成27年12月20日)
焼却灰 (一般廃棄物)	56,698(平成24年7月末)
	約251,700(平成27年11月現在)

【出典】福島県中間貯蔵施設等対策室調べ



保管污泥の状況



県中浄化センター内に仮設焼却施設を設置

処理の加速化に期待

震災以降、一時污泥の搬出が滞り、場内での保管量が増加しましたが、現在、搬出先の確保と污泥の減容化に取り組んでいます。

仮置場等の設置状況

◆除染により発生した除去土壌等の保管状況

(単位:箇所)

	平成26年3月31日現在	平成27年9月30日現在
除染実施計画に基づく仮置場	664	836
現場保管(住宅、事業所、学校の校庭等)	53,057	113,627
その他の仮置場	104	73
合計	53,825	114,536

県内52市町村の合計。全域が除染特別地域である7町村(楢葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村)を除く。

【出典】福島県除染対策課調べ

仮置場の状況



中間貯蔵施設

◆中間貯蔵施設への除去土壌等の搬入

除染に伴い発生した除去土壌等について、平成27年3月から中間貯蔵施設へのパイロット(試験)輸送が実施されており、これまでに予定している43市町村のうち、29市町村からの搬出が終了しました(1月20日現在)。

○搬出終了の市町村(29市町村)

大熊町、双葉町、田村市、富岡町、川内村、広野町、浪江町、葛尾村、楢葉町、棚倉町、郡山市、浅川町、会津美里町、平田村、会津坂下町、古殿町、鮫川村、湯川村、三春町、白河市、玉川村、南相馬市、伊達市、飯館村、天栄村、西郷村、いわき市、川俣町、福島市

○搬出中の市町村(5市町村)

須賀川市、相馬市、新地町、大玉村、泉崎村

環境回復のための研究拠点整備

◆福島県環境創造センター

福島を早くに回復し、県民の皆さんが将来にわたって安心して暮らせる環境を創造するための研究拠点を整備します。(環境放射線センターは、環境創造センターの浜通りにおける環境モニタリングを担当します。)



IAEAとの連携

IAEA(国際原子力機関)との間で河川・湖沼等の除染技術の検討や野生動物における放射性物質の動態調査など10の協力プロジェクトを進めています。

IAEA専門家による現地調査



【IAEA提案プロジェクト】

- 福島における除染
- 分かりやすいマップ作成のための放射線モニタリング・データ活用上の支援 など

【福島県提案プロジェクト】

- 河川・湖沼等の除染技術検討事業
- 野生動物における放射性核種の動態調査 など

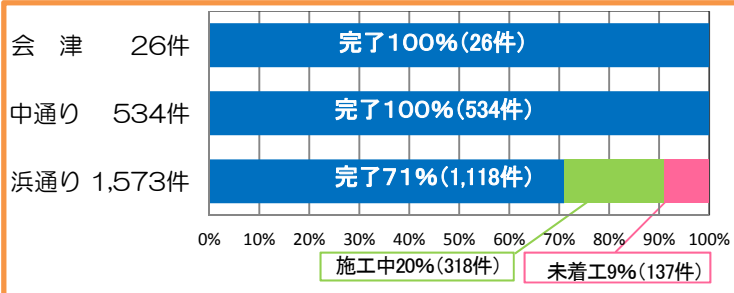


公共インフラ等の復旧と整備

被災した公共土木施設の94%で復旧工事に着手しており、全体の79%が完了しています。
今後も津波被災地を中心に、復旧工事の早期完了と道路インフラ等の充実強化を図り、安全安心の確保に努めていきます。
(※巻末に「参考」として進捗情報の詳細を掲載しています。)

◆工事箇所別進捗状況と地域別進捗状況(H27年12月末日現在)

公共土木施設等 災害復旧工事箇所	査定決定数 (箇所数)	着工件数		完了件数		完了 見通し ※帰還困難 区域を除く
		着工率 (%)	完了率 (%)			
計	2,133	1,996	94%	1,678	79%	
河川・砂防	271	263	97%	231	85%	H31年度
海岸	156	148	95%	44	28%	H31年度
道路・橋梁	798	753	94%	726	91%	H30年度
港湾	331	314	95%	285	86%	H29年度
漁港	480	421	88%	295	61%	H30年度
下水	3	3	100%	3	100%	完了
公園・都市施設	5	5	100%	5	100%	完了
公営住宅	89	89	100%	89	100%	完了



【参考】避難指示区域内の進捗状況

避難指示解除準備区域及び居住制限区域は、既に災害査定が終了しています。帰還困難区域では、国が行う除染などと調整を図りながら進めていく予定です。

査定決定数 (箇所数)	着工 件数	着工率	完了 件数	完了率
353	250	71%	171	48%

常磐自動車道

浪江～常磐富岡間の交通量は
1日8,700台

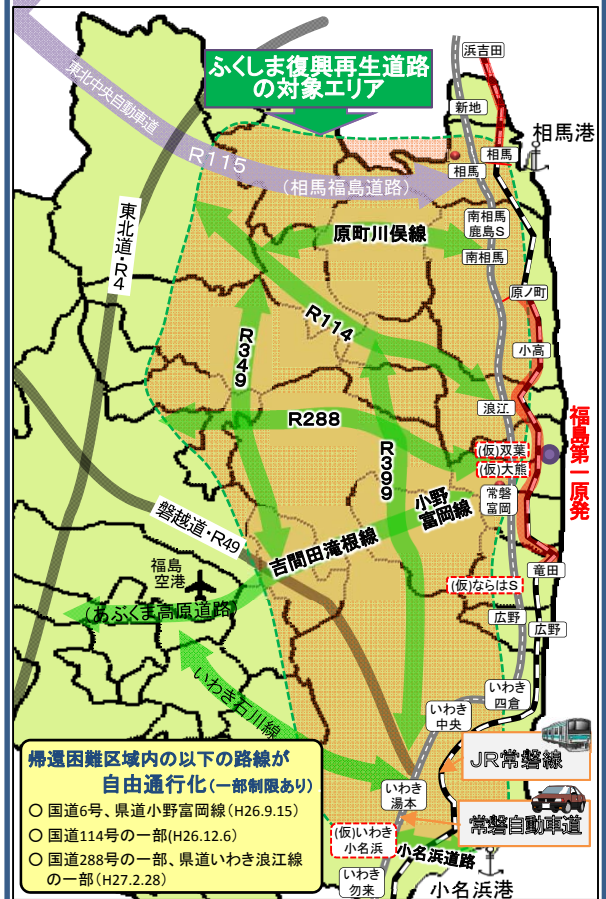
平成27年3月1日に開通した浪江～常磐富岡間の交通量は1日あたり8,700台。浜通りの観光客増加にも寄与しています。
(出典：NEXCO東日本 H27.10.16記者発表資料)

- ・(仮)ならはスマートIC (H30年度供用予定)
- ・(仮)大熊IC (H30年度供用予定)
- ・(仮)双葉IC (H31年度供用予定)



復興に向けた戦略的的道路整備

避難解除等区域の復興を周辺地域から強力に支援するため、平成30年代前半までの完成を目指して浜通り(高速道、直轄国道等に囲まれるエリア)へ続く主要8路線の整備などを進めています。



帰還困難区域内の以下の路線が自由通行化(一部制限あり)

- 国道6号、県道小野富岡線 (H26.9.15)
- 国道114号の一部 (H26.12.6)
- 国道288号の一部、県道いわき浪江線の一部 (H27.2.28)

JR常磐線

- ・ 広野～竜田間 [再開] (H26.6)
 - ・ 小高～原ノ町間 [再開見込] (H26春頃)
 - ・ 相馬～浜吉田間 [再開見込] (H28年12月末)
- バスによる代行輸送
- ・ 相馬～互理間 H23.4.12開始
 - ・ 竜田～原ノ町間 H27.1.31開始



農林水産業施設等の復旧状況

	農地 (営農再開可能面積の割合)	農業経営体 (経営再開状況)	漁業経営体 (操業再開状況)	農地・農業用施設等の復旧工事	
① 被害状況	5,460 ha 東日本大震災に伴う津波被災農地面積(旧警戒区域含む)	17,200 経営体 東日本大震災による被害のあった経営体	740 経営体 東日本大震災による被害のあった経営体	3,180 地区 査定完了	
② 復旧・復興の状況	1,820 ha 営農再開が可能な農地面積(H27年度見込)	10,500 経営体 営農を再開した経営体(※一部再開含む)	304 経営体 操業を再開した経営体(※試験操業を含む)	2,651 地区 工事着手	2,405 地区 工事完了
進捗率 (②/①*100)	33.3%	60.9%	41.1%	着手率83.4%	完了率75.6%
集計年月	(H27.7)	(H26.3)	(H27.5)	(H27.12)	



県民の心身の健康を見守り、将来にわたる県民の健康の維持、増進を図ることを目的とした「県民健康調査」に取り組み、県民の被ばく線量の推計や甲状腺検査などを実施しています。

県民健康調査

基本調査 (被ばく線量の推計)

平成23年3月11日時点での県内居住者(2,055,328人)を対象

・自記式質問票回答率 **約27.3%**(H27.9月末現在)
(回答者数561,966人/対象者2,055,328人)

<外部被ばく線量推計結果>

【全県分】0~2ミリシーベルト未満の割合 **93.8%**
※原発事故発生直後から7/11までの4か月間の外部被ばく線量を推計

甲状腺検査

震災時に概ね18歳以下等の約38万人を対象

<参考>福島県外3県における甲状腺有所見率調査結果

<対象地域>

青森県弘前市
山梨県甲府市
長崎県長崎市

<調査対象者>

3~18歳の者
4,365人

<調査結果>

【A1】1,853人(42.5%)
【A2】2,468人(56.5%)
【B】 44人(1.0%)
【C】 0人(0.0%)

【出典】環境省報道発表資料

<先行検査>(平成23~25年度) 一次検査終了

震災時18歳以下の子どもを対象とした現状確認のための検査。受診者数 約30万人

<本格検査>(平成26年度~)

先行検査と比較するための2回目の検査。
平成24年4月1日までに生まれた方まで対象者を拡大して実施する。対象者が20歳を超えるまでは2年ごと、それ以降は25歳、30歳の5年ごとの節目に検査を継続。

(H27.9月末現在)

判定区分	判定内容	先行検査		本格検査	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
A判定	A1 結節や嚢胞なし	154,606	99.2	74,985	99.2
	A2 5.0mm以下の結節や20.0mm以下の嚢胞	143,576		106,079	
B判定	5.1mm以上の結節や20.1mm以上の嚢胞	2,293	0.8	1,483	0.8
C判定	直ちに二次検査を要するもの	1	0.0	0	0.0



甲状腺検査の様子



先行検査

- ・A1、A2判定は次回(平成26年度以降)の検査まで経過観察。
- ・B、C判定は二次検査を実施。(先行・本格検査共通)
- ・A2判定の判定内容であっても、甲状腺の状態等から二次検査を要すると判断した方については、B判定としている。(先行・本格検査共通)
- ・二次検査で、悪性ないし悪性疑い114人。(手術実施101人:良性結節1人、乳頭癌97人、低分化癌3人)

本格検査

- ・A1、A2判定は次回(平成28年度以降)の検査まで経過観察。
- ・二次検査(879人結果確定)で、悪性ないし悪性疑い39人。(手術実施15人:乳頭癌15人)

ホールボディカウンターによる内部被ばく検査

県実施分の累計検査人数
279,717人
(平成23年6月~平成27年11月)

【検査実施結果(県)】 預託実効線量(おおむね一生涯に体内から受けるとされる内部被ばく量)

1ミリシーベルト未満	1ミリシーベルト	2ミリシーベルト	3ミリシーベルト
279,691人	14人	10人	2人

※県ではホールボディカウンター22台体制(平成27年12月現在)で検査をしています。



内部被ばく検査の様子

18歳以下の県民の医療費無料化

子どもの健康を守り、県内で安心して子どもを産み、育てやすい環境づくりを進めるため、子育て支援策として、医療費助成の年齢拡大を行い、平成24年10月から18歳以下の県民の医療費無料化を実施。



放射線医学に係る最先端の研究・診療拠点整備

将来にわたり県民の健康を守るため、放射線医学に係る最先端の研究・診療拠点を整備します。

ふくしま国際医療科学センター



着工!
(H26.5)

イメージ

福島市

5つの機能

- ①放射線医学県民健康管理センター
- ②先端臨床研究センター
- ③先端診療部門
- ④教育・人材育成部門
- ⑤医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター
→治療薬・診断薬の開発支援と産学官共同研究

場所 福島市(県立医科大学)
完成 平成28年度予定

<進捗状況等>

構想 設計 着工 完成

H26~27: 建設工事等
H28: 全面稼働予定

農林水産業の状況

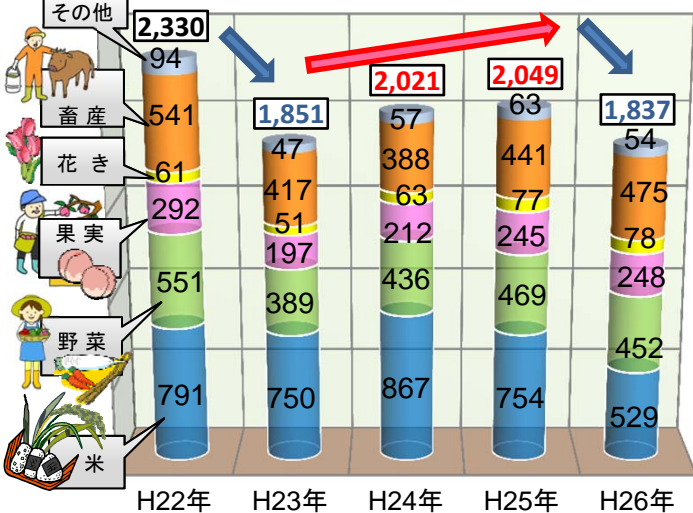


農林水産業については、震災前と比べ産出額が減少しています。今後、被災者の生活再建のためにも、農林水産業の再生に向けた取組や、県産農林水産物の魅力と安全・安心に向けたPR活動等を全力で進めていきます。

福島県の農業産出額等の推移

(単位:億円)

本県の農業産出額の推移

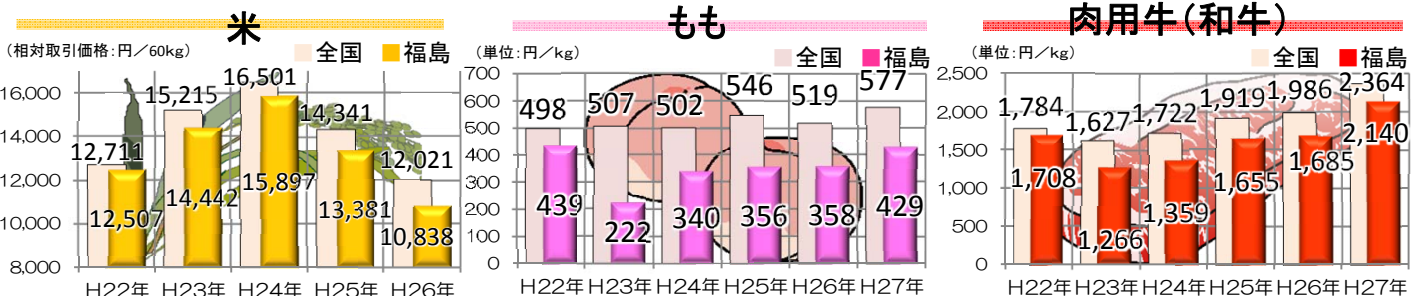


※ 項目毎の四捨五入により年計と年の各項目の総和は一致しない。
 ※ 米について、H24年以降、作付面積、収穫量とも増加傾向にあるものの、H26年は全国的に米価が大きく下落し、本県の米の産出額も大幅に減少した。

【出典】農林水産省 生産農業所得統計、生産林業所得統計報告書、漁業生産額より作成

主な農産物価格の推移

福島県を代表する農産物「米:収穫量全国第4位、もも:収穫量全国第2位、肉用牛:飼養頭数全国第10位(いずれもH22)」の価格推移



【出典】農林水産省「米の相対取引価格」に基づく県推計

【出典】東京都中央卸売市場ホームページ市場統計情報

県産食品のPR

風評払拭を図るため、農林水産物など県産食品の魅力の発信と、安全・安心に向けたPR活動等を行っています。



ミラノ万博(イタリア) ふくしまウイーク開催

食の万博として話題を博したミラノ万博。福島県は「ふくしまウイーク」として平成27年10月11日～14日出展し、本県を訪れたミラノ大学の学生たちと共に復興に向けて歩み続ける本県の姿や豊かな食文化と食の安全確保の取組を世界に発信しました。

「美味しいものどころ ふくしまの恵み商談会」開催

県産農林水産物等の販路開拓を図るため、首都圏において100を超える事業者参加の下、大規模商談会を初めて開催しました。(平成28年1月20日、東京・池袋サンシャインシティ)

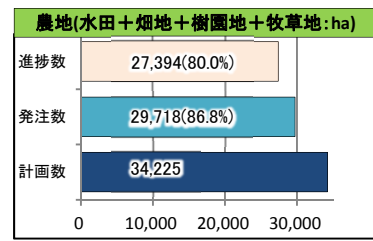
日本橋ふくしま館「MIDETTE(ミデット)」

各種催事を通して県産品の安全・安心に向けたPR、観光情報や福島県の復興の状況などふくしまの魅力と「今」を発信中。



基準値を超える放射性物質を含む食品を流通させないため、農地の除染はもちろん、検査体制も強化し安全を確認しています。特に主食であるお米については、県内全域で生産・出荷される全ての米袋を検査し、基準を満たした米袋には検査済ラベルを貼付しています。
また試験操業で水揚げされた水産物をより安全に流通させるため、漁協等が行う自主検査に対し検査技術の指導を行うとともに、生産者、流通業者等と効率的な検査体制の構築について協議しています。

農地等の除染



県産農林水産物のモニタリング等状況

(平成27年4月1日～27年12月31日) ※「玄米」のみ、平成27年8月20日～平成27年12月30日

県産農林水産物は、出荷前に検査を実施しています。基準値を超過した場合には、品目ごとに市町村単位で出荷が制限されるため、流通している農林水産物は安全性が確認されています。

種別	検査数	基準値超過数	超過数割合
米の全量全袋検査 玄米(H27年産)	約1,030万件	0件	0.00%
野菜・果実	4,411件	0件	0.00%
畜産物	3,573件	0件	0.00%
栽培きのこ	686件	0件	0.00%
山菜・野生きのこ	732件	6件	0.82%
水産物	7,119件	7件	0.10%

基準値
超過なし



◆県内全域の全ての米袋を検査



◆生産者団体等の検査機器導入に対する補助



検査結果をHP等で公表。基準値を超えたものは、流通させません！



検査結果を公表

品名	検査数	超過数	超過率
りんご	1,234	0	0.00%
みかん	567	0	0.00%
ぶどう	890	0	0.00%
梨	321	0	0.00%
桃	654	0	0.00%
柿	987	0	0.00%
なし	210	0	0.00%
りんご	1,234	0	0.00%
みかん	567	0	0.00%
ぶどう	890	0	0.00%
梨	321	0	0.00%
桃	654	0	0.00%
柿	987	0	0.00%
なし	210	0	0.00%

「ふくしま新発売」JHP
<http://www.new-fukushima.jp/>

◆漁業における試験操業

福島県の沿岸漁業及び底引網漁業は、現在操業自粛を余儀なくされていますが、2万件を超えるモニタリングの結果から安全が確認されている魚種もあり、これらの魚種(平成27年12月25日現在で71魚種)に限定した「試験操業」を行っています。



また、漁業協同組合は、試験操業によって販売される漁獲物については、国の基準よりも厳しい自主基準(50Bq/kg[国基準:100Bq/kg])設け、放射性物質の検査を行っています。

食品中の放射性セシウムの新基準

食品	(Bq/kg)
一般食品	100
牛乳	50
乳児用食品	50
飲料水	10

観光業の再生

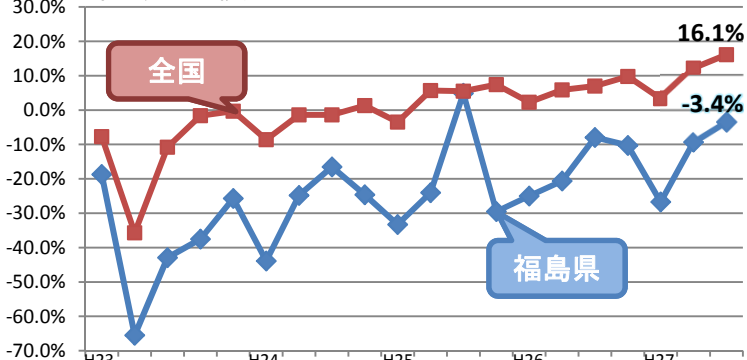


ふくしまデスティネーションキャンペーン(DC)を開催した平成27年4月～6月は、速報値で震災前の約9割まで観光客入込数が回復しました。

平成28年4月～6月には『「福が満開、福のしま。」福島県観光キャンペーン2016(アフターDC)』が開催されることから、県民が一丸となったおもてなしや地域主体の受入体制の整備、観光素材の磨き上げなど、ふくしまDCで培った成果を定着させ、継続した観光振興に取り組んでまいります。

観光客の推移

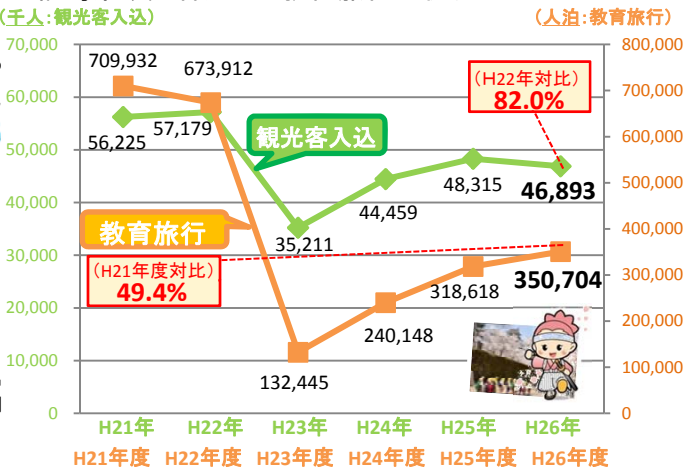
◆観光客中心の宿泊施設※における実宿泊者数(人泊)推移
(H22年同月と比較)



※宿泊者のうち観光目的の宿泊者が全体の50%以上と回答した宿泊施設。
※平成26年12月までは確定値。平成27年は速報値。

【出典】観光庁 宿泊旅行統計調査

◆福島県観光客入込と教育旅行の状況



【出典】福島県観光交流局・福島県観光物産交流協会

大型観光キャンペーンを実施

デスティネーション
キャンペーン開催!

ふくしまプレDC
平成26年4月～6月

ふくしまDC
平成27年4月～6月

ふくしまアフターDC
平成28年4月～6月

全国新酒鑑評会で金賞受賞数が3年連続日本一になった福島県の酒蔵等をまわる食めぐりや、花めぐり、湯めぐりといった周遊企画の実施など、継続した観光誘客の促進につなげていきます。



様々なイベント等で観光再生を促進

第11回食育推進全国大会 In ふくしま

H28.6



平成28年6月11、12日に郡山市で開催予定。福島県の食文化や食材を県内外の方々に広め、食を通して元氣な福島を全国に発信します。

出典: 内閣府「第10回食育推進全国大会実施結果報告」

「フェルメールとレンブラント 17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち」展 (平成28年4月6日～5月8日)

H28.4～5



17世紀のオランダを代表する画家「フェルメール」、「レンブラント」の日本初公開の作品をはじめ、約60点の作品が展示されます。

県立美術館

福島プロジェクト2016はるか
～白河 花かきり～ふくしまDC特別企画～

H28.4



平成28年4月15、16日白河文化会館「コミネス」で開催。新種の八重桜「はるか」を全国に広げ、福島や東北地方の復興を応援するイベントです。

U-15ベースボールワールドカップ2016 in いわき

H28.7～8



平成28年7月29日～8月7日にいわき市で日本初開催。復興に向けたメッセージ発信、復興支援への感謝を込めたおもてなしなど「復興の象徴」となるイベントを目指します。

©Gettyimages/SamuraiJapan

H28.7～10

福島県ウルトラマンARスタンプラリー



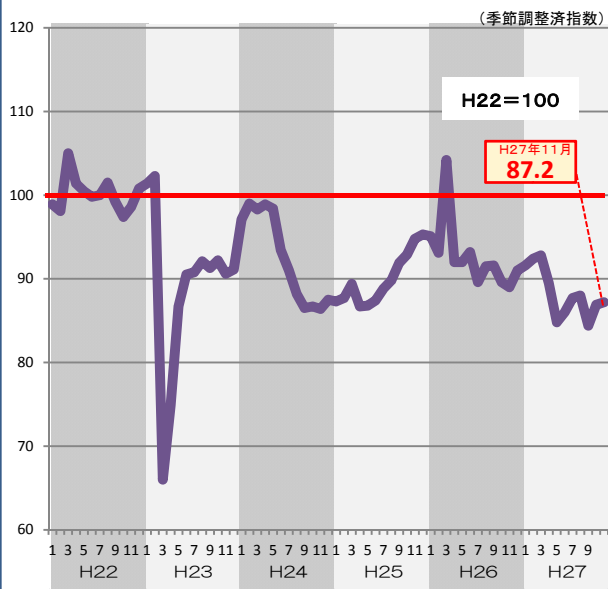
※ スタンプラリー参加に必要な専用アプリについては平成28年7月からダウンロード可能となります。
※ 画像はイメージです。実際に出現するキャラクター及び出現場所とは異なる場合があります。

産業振興と雇用の創出



製造業等の生産状況を表す鉱工業生産指数をみると、依然として震災前の水準まで回復していません。これは従来から県内に立地する製造業等の生産量がまだ低迷していることを表しています。一方で製造品出荷額等は、ゴム製品、業務用機械などの業種で出荷額が増加したため、県全体でみると震災前の水準までほぼ回復しておりますが、双葉郡が低迷するなど、地域により差を生じています。
本県産業の持続的な発展に向けて、地域経済の核となる中小企業等の事業継続・再開などを積極的に支援するほか、県内への企業誘致等を通じて雇用の確保を図ってまいります。

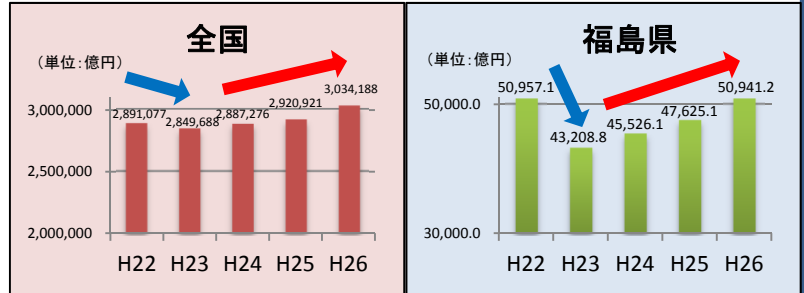
福島県の鉱工業生産指数の推移



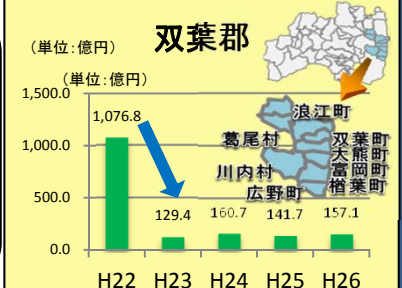
【出典】県統計課「福島県鉱工業指数月報」より作成。

福島県の鉱工業生産指数は、平成22年を100とすると、平成23年から27年にかけておおむね90前後で推移しており、震災前の水準まで回復していません。特に、輸送機械工業や電子部品・デバイス工業、電気機械工業等の低迷が顕著となっています。

製造品出荷額等(※)の推移

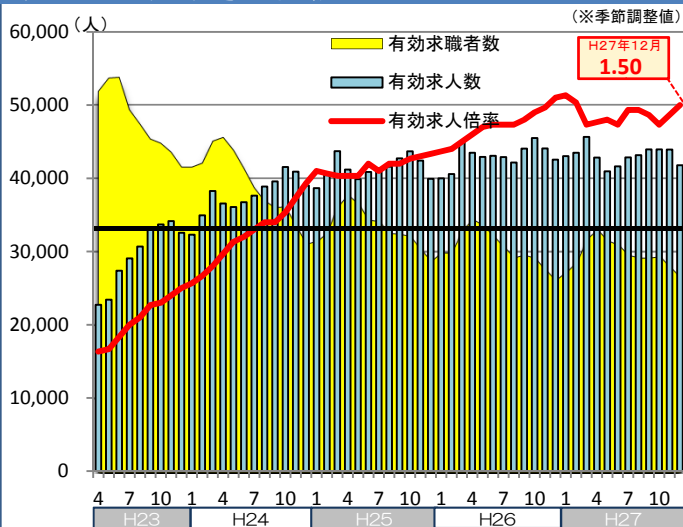


製造品出荷額等の推移をみると、全国では震災前(平成22年)を超過する水準まで回復し、福島県についても平成26年にほぼ震災前の水準まで回復しています。一方で、原発事故により避難を余儀なくされた双葉郡は平成23年以降、震災前の1割強程度にとどまっています。双葉郡をはじめとする避難地域および浜通りの復興をさらに進めていく必要があります。



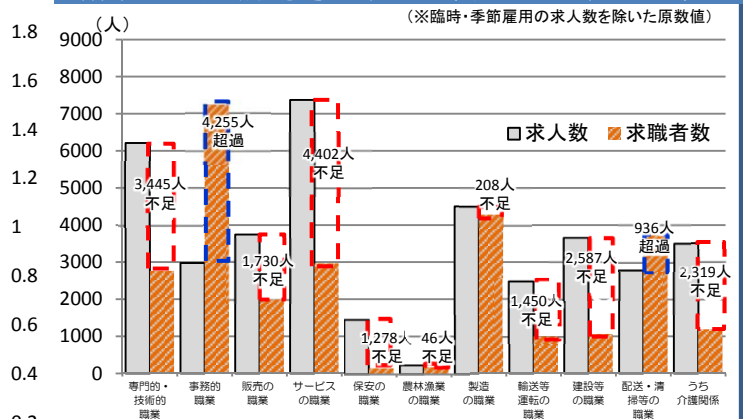
※ 製造業(注)に属する事業所で従業員4人以上の事業所における1年間の製造品出荷額、加工賃収入額、その他の収入額の合計。休業中、操業準備中等の事業所は含まない。
(注) 統計法第2条第9項に規定する日本標準産業分類(平成25年10月改定)に掲げる大分類E-製造業に属する事業所
【出典】経済産業省「平成26年工業統計速報」および県統計課「工業統計調査結果報告書」(H22、H24、H25)、「平成24年経済センサス-活動調査(製造業)確報結果」、「工業統計調査結果速報」(H26)より作成。

有効求人倍率等の推移



【出典】福島労働局職業安定部「最近の雇用失業情勢について」より作成。

職業別雇用情勢等の状況(平成27年12月)



求人超過(人手不足)

専門・技術(建築・土木技術者、看護師・医療技術者など)、サービス(介護、接客)等

求職超過(就職難)

事務的職業、配送・掃除等の職業

【出典】福島労働局職業安定部「最近の雇用失業情勢について」より作成。

有効求人倍率は高水準を維持しておりますが、その内訳をみると、事務的職業が就職難となっている一方、建築・土木技術者、医師・看護師などの専門的・技術的職業や介護関係などにおいて人手不足が顕著となるなど、職業により偏りが生じています。

中小企業等の復旧・復興、雇用確保に向けた取組

〇施設・設備の復旧支援

- ◆中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業
平成23～26年度累計:
317グループ、3,478社、1,044億円の支援
- ◆中小企業等復旧・復興支援事業
平成23～26年度累計:
3,740件、95億円の支援



〇資金繰り支援

- ◆ふくしま復興特別資金
平成23～26年度累計:
16,400件、2,713億円を融資
- ◆特定地域中小企業特別資金
平成23～26年度累計:
849件、145億円を融資

〇雇用支援

- ◆緊急雇用創出事業
平成23～26年度累計:
62,585人を雇用
- ◆ふくしま産業復興雇用支援事業
平成23～26年度累計:
26,022人を雇用

立地補助金による企業立地支援

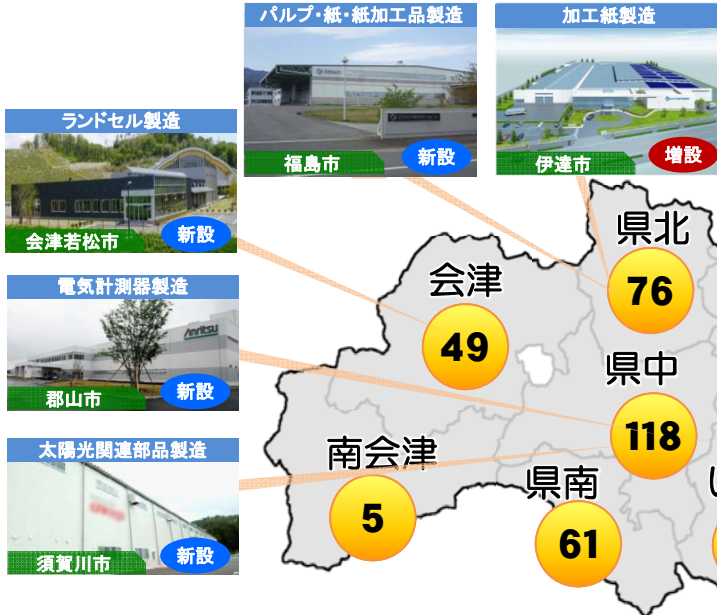
◆ふくしま産業復興企業立地補助金

約1,997億円
(8次指定日現在)

県内に工場等を新設又は増設する企業を支援し、生産規模の拡大と雇用を創出します。

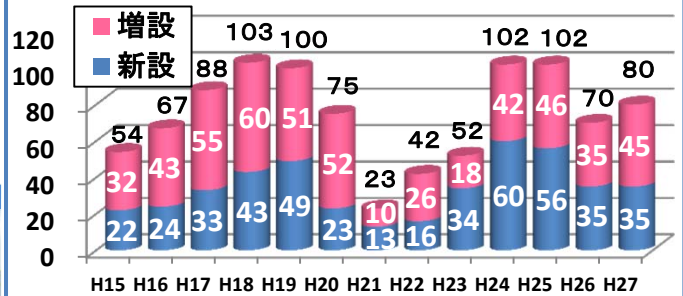
平成27年12月現在
446社を指定

5,305人の
雇用創出見込み



工場新增設の動き

福島県内の工場[敷地面積1,000㎡以上]新・増設状況
※県工業開発条例に基づく設置届出件数



【出典】福島県商工労働部調べ

◆津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金

約884億円
(累計採択金額)

津波や原子力災害により、甚大な被害があった地域の産業復興を加速するため、工場等を新設又は増設する企業を支援し、新たな雇用や経済波及効果等を創出します。

福島県を事業実施場所としている企業 第1～5次公募採択累計

191社
(平成27年11月現在)

特例措置

課税の特例措置（優遇税制）による企業立地支援

県内産業の復興や企業立地の促進等を図るため、税制上の特例措置を講じています。

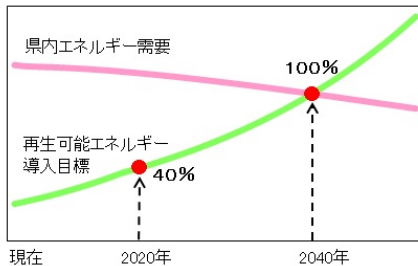
	避難解除等区域	県内全域		
	福島復興再生特別措置法による課税の特例	ふくしま産業復興投資促進特区による課税の特例		ふくしま観光復興促進特区による課税の特例
対象区域等	避難解除区域 避難指示解除準備区域 居住制限区域	製造業等 県内59市町村の工業団地等 (1,348力所)	農林水産業等 県内53市町村の農業振興地域 (一部除く)、漁港を中核として 産業集積が図られる区域等	観光 県内51市町村の温泉地の観光施設等
目的	事業再開・継続の支援、新規立地の促進	産業復興・企業立地促進	農山漁村の再生	観光の再生
内容	① 機械・装置、建物等の投資に係る特別償却又は税額控除 ② 被災雇用者に対する給与等支給額の20%を税額控除 ③ 施設・設備の新増設による事業税、不動産取得税、固定資産税の課税免除等(※①の指定を受けた場合のみ) ④ 将来の事業再開に向けて準備する事業者の最大3年間の課税繰り延べ	① 新規立地新設企業の法人税を実質5年間無税 ② 機械・装置、建物等の投資に係る特別償却又は税額控除 ③ 被災雇用者に対する給与等支給額の10%を税額控除 ④ 開発研究用減価償却資産の即時償却及び税額控除 ⑤ 施設・設備の新増設による事業税、不動産取得税、固定資産税の課税免除等(※①、②、④の指定を受けた場合のみ)		
認定件数	既存事業者 2,816件 新規事業者等 32件	1,189件 (雇用予定数38,621人)	92件 (雇用予定数 763人)	20件 (雇用予定数 313人)



福島県の復興・再生には、単なる復旧にとどまらない先導的な取組が必要であることから、現在、各種研究開発・産業創出拠点の整備を進めており、復興の推進力としていきます。

再生可能エネルギーの推進

<再生可能エネルギー導入目標>



2040年頃には、県内エネルギー需要の100%相当量を再生可能エネルギーで生み出すことを目標に再生可能エネルギーの導入拡大を進めるとともに、拠点整備等を通じて関連産業の集積・育成を図ります。

ふくしま復興・再生可能エネルギー産業フェア(REIFふくしま)2015



展示会の開催

再生可能エネルギー関連企業による製品・部品等の展示や取引商談会、各種セミナー等からなる展示会を10月28日、29日に開催。(過去最多の176団体が出展。282小間の規模で開催)

柳津西山地熱発電所



柳津町	提供: 東北電力株式会社
出力	65メガワット
完成	稼働中

グリーン発電会津 木質バイオマス発電所



会津若松市	提供: 株式会社グリーン発電会津
出力	5.7メガワット
完成	稼働中

郡山布引高原風力発電所



郡山市	提供: J-POWER/電源開発株式会社
出力	65.98メガワット
完成	稼働中

小名浜太陽光プロジェクト



いわき市	提供: 三菱商事株式会社
出力	18.4メガワット
完成	稼働中

大熊町ふるさと復興メガソーラー



大熊町	
出力	1.89メガワット
完成	稼働中



デンマーク大使との覚書締結

県では、ドイツNRW州(ノルトライン＝ヴェストファーレン州)の環境省やデンマーク大使館と、再生可能エネルギーや省エネルギー分野における連携の覚書を締結しています。

これらの分野に関する両地域の先進的な知見を生かし、本県における再生可能エネルギーの導入や関連産業の集積を目指していきます。

ドイツNRW州やデンマークとの連携

国際的先進地との連携

産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所



技術開発や人材育成を推進!

提供: (国研)産業技術総合研究所

郡山市

国立研究開発法人産業技術総合研究所が、再生可能エネルギーの研究開発拠点を整備。大型パワーコンディショナ試験評価施設を整備中。

場所	郡山市(郡山西部第二工業団地)
完成	平成26年4月1日開所

<進捗状況等>



浮体式洋上風力発電実証研究事業



世界最大級“ふくしま新風”運転開始

広野・楢葉沖

浮体式洋上風力発電システムの安全性、信頼性、経済性を検証。研究開発等の拠点を形成し、風力発電関連産業の集積を目指す。

場所	広野・楢葉沖
完成	[第一期] 2メガワット風車 平成25年11月11日より運転開始 [第二期] 7メガワット風車 平成27年12月26日より運転開始

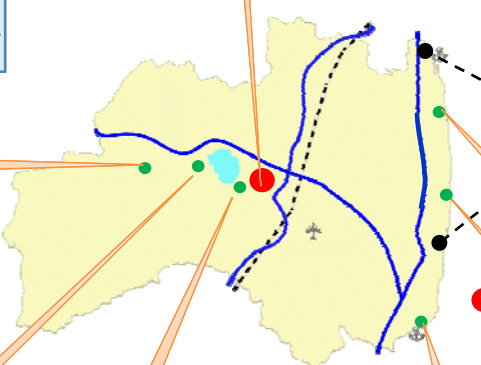
スマートコミュニティ構想の推進

復興まちづくりにおいて、太陽光、風力などの再生可能エネルギーやLNGによる熱電供給などの分散型エネルギーを効率的に利用する仕組みを活用。

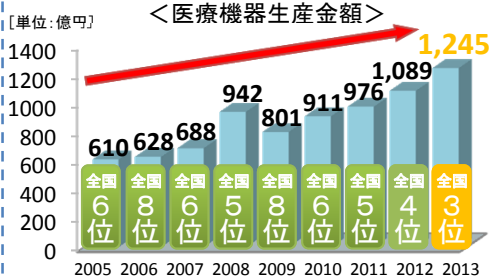
場所	新地町、楢葉町
----	---------

沿岸部大規模太陽光発電事業

場所	南相馬市
出力	70メガワット
完成	平成29年運用開始予定



産業再生と集積の促進



福島県は、震災前から全国有数の医療機器・部品の生産県であり、さらなる一大拠点化を目指し、産業振興・雇用促進に繋げていきます。

2013年医療機器生産額	1,245億円 (全国 3位)
2013年医療機器受託生産額	352億円 (全国 1位)
2012年医療用機械器具の部品等生産金額	133億円 (全国 1位)

H27.11 初開催 「ロボットフェスタふくしま2015」の開催



「ロボット産業革命の地ふくしま」に向けて、ロボットに対する県民、特に若い世代の関心を高めることを目的として、初めて開催されました。

17の企業・大学等が出展し、災害対応、廃炉、医療・福祉など各分野にわたって、最先端のロボットや福島県内で開発を進めている各種ロボットの展示・デモンストレーションなどをおこない、約4,800人の方々にご来場いただきました。

世界最大の展示会に出展

県内企業の有する優れた技術の世界に向けて発信するため、世界最大の医療機器関連見本市である「MEDICA/COMPAMED」に出展する企業を支援しています。

【MEDICA/COMPAMED】

毎年11月にドイツのデュッセルドルフにて開催される世界最大の医療機器製品・関連技術見本市。世界100カ国以上から約13万人の医療従事者、バイヤー、メーカーが来場し、活発な商談が行われます。



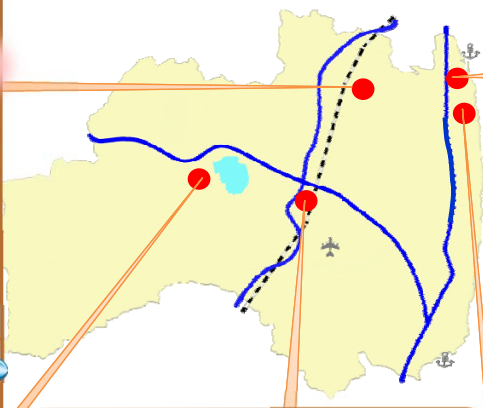
ふくしま国際医療科学センター

H28年度完成予定

福島市 イメージ

医療界と産業界の橋渡し役として、がんを中心とした新規治療薬・診断薬・検査試薬などの創薬拠点を整備。

場所	福島市(県立医科大学)
完成	平成28年度予定



水産種苗研究・生産施設

着工！(H28.1)

相馬市 イメージ

福島県の水産業振興に向けた調査研究のための拠点を復旧整備。

場所	相馬市(株)ADEKA相馬工場敷地内
完成	平成29年度開所予定

<進捗状況等>

構想 → 設計 → 着工 → 完成

H27～：建設工事等
H29：年度中の開所を目指す

会津大学復興支援センター(先端ICTラボ)

H27.10.1 供用開始

会津若松市 提供：会津大学

ICTを利活用した地域産業振興を担う企業の集積や人材育成に取り組むとともに、先端ICT研究を推進し、新たなICT産業を創出するための研究開発拠点を整備。

場所	会津若松市(会津大学)
完成	平成27年10月1日供用開始

<進捗状況等>

構想 → 設計 → 着工 → 完成

ふくしま医療機器開発支援センター

H28年秋開所予定

郡山市 イメージ

医療機器の開発から事業化までの一体的な支援を行うため、大動物を活用した安全性評価や医療従事者の機器操作トレーニング等を実施する拠点を整備。

場所	郡山市(旧農業試験場跡地)
完成	平成28年秋の開所を目指す

<進捗状況等>

構想 → 設計 → 着工 → 完成

H26～28：建設工事等
H28：開所予定

浜地域農業再生研究センター

H27年度開所予定

南相馬市 イメージ

避難地域等の営農再開、農業再生に向けた調査研究のための拠点を整備。

場所	南相馬市(旧菅浜ニュースポーツ広場)
完成	平成27年度開所予定

<進捗状況等>

構想 → 設計 → 着工 → 完成

H26～H27：建設工事等
H27：年度中の開所を目指す

福島県復興計画と平成28年度当初予算(案)の概要

New 「福島県復興計画(第3次)」平成27年12月に策定



東日本大震災、原発事故の発生から5年目を迎え、避難指示区域の再編や一部市町村の避難指示の解除など、本県の復興をめぐる情勢が大きく変化しています。

このような動きに対応し、復興に向けて必要な取組を進めていくため、県民の皆様や市町村のご意見等を踏まえ、平成27年12月25日、復興計画(第3次)を策定しました。

今後の福島への復興に向け、合計10の重点プロジェクトにより福島への復興を推進していきます。

福島県復興計画 検索



平成28年度当初予算(案)は、県政史上最大となった平成27年度当初予算に次ぐ規模となっています。平成28年度は、復興・創生期間の初年度であり、本県の未来を形作り、復興を確実に成し遂げていくための新たな第一歩を踏み出す大切な一年です。昨年末に改定した「復興計画(第3次)」、人口減少対策を総合的に進めるために策定した「ふくしま創生総合戦略」を着実に実行し、復興再生・地域創生の実現に取り組んでいきます。

平成28年度
当初予算(案)

1兆8,819億円

うち、震災・原子力災害対応分
1兆384億円

避難地域の復興・再生

避難地域等復興加速プロジェクト

826億円

復興拠点を核としたまちづくり、広域インフラの充実・広域連携の推進、浜通り地方の医療等の提供体制の再構築、産業・生業の再生、イノベーション・コースト構想の推進、未来を担う、地域を担う人づくり、地域の再生を通じた交流の促進

安心して住み、暮らす

生活再建支援プロジェクト

953億円

住まいや安全・安心の確保、帰還に向けた取組・支援、避難者支援体制の充実



環境回復プロジェクト

2,545億円

除染の推進、食品の安全確保、廃棄物等の処理、環境創造センター等における研究の推進、廃炉に向けた安全監視



心身の健康を守るプロジェクト

262億円

県民の健康の保持・増進、地域医療等の再構築、最先端医療の提供、被災者等の心のケア



子ども・若者育成プロジェクト

177億円

日本一安心して子どもを生き、育てやすい環境づくり、復興を担う心豊かなたくましい人づくり、産業復興を担う人づくり



ふるさとで働く

農林水産業再生プロジェクト

536億円

安全・安心を提供する取組、農業の再生、森林林業の再生、水産業の再生



中小企業等復興プロジェクト

1,435億円

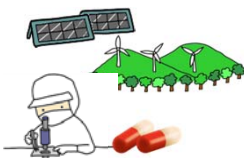
県内中小企業等の振興、企業誘致の促進



新産業創造プロジェクト

339億円

再生可能エネルギーの推進、医療関連産業の集積、ロボット関連産業の集積



まちをつくり、ひとつつながる

風評・風化対策プロジェクト

75億円

農林水産物をはじめとした県産品の販路回復・開拓、観光誘客の促進・教育旅行の回復、国内外への正確な情報発信、ふくしまをつなぐ、きずなづくり、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした情報発信・交流促進

復興まちづくり・交流ネットワーク基盤強化プロジェクト

1,651億円

津波被災地等の復興まちづくり、復興を支える交通基盤の整備、防災・災害対策の推進



人口減少・高齢化対策プロジェクト

2,370億円

住みやすい・働きやすい県づくり、出産、子育てしやすい県づくり、高齢者が暮らしやすい県づくり、若者、女性が活躍する県づくり

再掲事業を含む

<参考>データで見る福島の復興状況

項目	復興・復興の状況	備考
人口	総人口 対平成22年比 指数(H22=100)	94.9 平成27年12月1日現在 総人口 1,924,697人 平成27年12月1日総人口1,924,697人 / 平成22年10月1日 2,029,064人 「福島県の推計人口(福島県現住人口調査年報)」
	生産年齢人口 (15歳~64歳人口) 対平成22年比 指数(H22=100)	91.2 平成27年12月1日現在 生産年齢人口 1,127,988人 平成27年12月1日生産年齢人口1,127,988人 / 平成22年10月1日 1,236,458人 「福島県の推計人口(福島県現住人口調査年報)」
	合計特殊出生率 対平成22年比 指数(H22=100)	103.9 平成26年 合計特殊出生率 1.58(全国平均1.42) 平成26年合計特殊出生率1.58 / 平成22年 1.52 「厚生労働省 人口動態調査」
環境の回復	市町村除染地域における除染状況(住宅) 計画数に対する進捗率	73.9% 平成27年12月末時点 計画数は452,409戸 発注数は404,051戸 進捗率は334,511戸 「福島県除染対策課調べ」
	市町村除染地域における除染状況(公共施設等) 計画数に対する進捗率	86.1% 平成27年12月末時点 計画数は10,342施設 発注数は10,220施設 進捗率は8,908施設 「福島県除染対策課調べ」
	市町村除染地域における除染状況(道路) 計画数に対する進捗率	46.4% 平成27年12月末時点 計画数は14,770km 発注数は9,884km 進捗率は6,857km 「福島県除染対策課調べ」
	市町村除染地域における除染状況(農地) 計画数に対する進捗率	80.0% 平成27年12月末時点 計画数は34,225ha 発注数は29,718ha 進捗率は27,394ha 「福島県除染対策課調べ」
	災害廃棄物処理状況 発生見込量に対する処理・処分量	83.5% 平成27年11月末時点 発生見込量は3,687千トン、仮置場搬入量は3,580千トン、処理・処分量は3,078千トン 「福島県一般廃棄物課調べ」
	汚染廃棄物の保管状況(下水汚泥等) 保管量(平成27年12月20日時点[グラフ下])	43,000 ^{トン} 75,700 ^{トン} 43,000 ^{トン} 平成27年12月20日時点の保管量 約43,000トン(平成25年9月時点の保管量75,700トン(グラフ上:最大保管量)) 「福島県中間貯蔵施設等対策室調べ」
	汚染廃棄物の保管状況(焼却灰(一般廃棄物)) 保管量(平成27年11月時点[グラフ下])	251,700 ^{トン} 56,698 ^{トン} 251,700 ^{トン} 平成27年11月時点の保管量 約251,700トン(平成24年7月時点の保管量56,698トン(グラフ上)) 「福島県中間貯蔵施設等対策室調べ」
生活再建	避難者数(県内・県外) 対平成24年6月比 指数(H24.6=100)	60.9 平成27年12月時点の避難者数 99,991人(県内避難者数56,463人、県外避難者数43,497人、避難先不明者31人) 平成27年12月時点の避難者数99,991人 / 平成24年6月時点 164,218人 「福島県災害対策本部」
	子どもの避難者数(18歳未満) 対平成24年10月比 指数(H24.10=100)	73.2 平成27年10月1日時点の避難者数 22,660人(県内避難者数12,103人、県外避難者数10,557人) 平成27年10月時点の子どもの避難者数22,660人 / 平成24年10月時点 30,968人 「福島県 こども・青少年政策課調べ」
	応急仮設住宅管理状況 対平成23年4月末比 指数(H23.4月末=100)	68.0 平成28年1月14日時点の仮設住宅入居戸数 9,916戸 平成28年1月14日時点の仮設住宅入居戸数9,916戸 / 平成23年4月末時点 14,590戸 「福島県 災害対策本部(土木部)調べ」
	借上住宅支援状況 対平成24年4月末比 指数(H24.4月末=100)	57.1 平成28年1月14日時点の借上住宅支援戸数 14,596戸※数値は県内の状況のみ 平成28年1月14日時点の借上住宅支援戸数14,596戸 / 平成24年4月末時点 25,554戸 「福島県 災害対策本部(土木部)調べ」
	住宅再建状況 住宅再建状況	64.1% 平成27年12月28日時点 被災者生活再建支援制度における加算支援金申請件数 20,074件 / 基礎支援金申請件数 31,339件
	新設住宅着工戸数 対平成22年比 指数(H22=100)	162.3 平成26年の新設住宅着工戸数 15,165戸 平成26年の新設住宅着工戸数15,165戸 / 平成22年 9,342戸 「国土交通省(住宅着工統計)」
	災害公営住宅整備状況(地震・津波) 完成戸数	78.2% 平成27年12月31日時点 完成戸数 2,198戸 / 11市町での整備予定戸数 2,811戸
	復興公営住宅整備状況(原発避難者) 完成戸数	19.5% 平成27年12月31日時点 完成戸数 955戸 / 現状を踏まえた整備予定戸数 4,890戸(平成29年度完成予定)
産業全体	県内総生産(名目) 対平成22年度比 指数(H22=100)	103.4 平成25年度の県内総生産(名目) 7兆1,746億円 平成25年度の県内総生産(名目)7,174.6億円 / 平成22年度 69,398億円 「福島県県民経済計算」
	県民所得 対平成22年度比 指数(H22=100)	105.5 平成25年度の県民所得 5兆4,235億円 平成25年度の県民所得5,423.5億円 / 平成22年度 5,141.5億円 「福島県県民経済計算」
	現金給与総額指数 対平成22年比 指数(H22=100)	105.3 平成26年の現金給与総額指数 105.3(H22=100) 「毎月勤労統計調査地方調査結果年報」
農林水産業	農業産出額 対平成22年比 指数(H22=100)	78.8 平成26年の本県農業産出額 1,837億円 平成26年の本県農業産出額1,837億円 / 平成22年 2,330億円 「農林水産省 生産農業所得統計報告書」
	林業産出額 対平成22年比 指数(H22=100)	68.5 平成25年の本県林業産出額 85.5億円 平成25年の本県林業産出額85.5億円 / 平成22年 124.8億円 「農林水産省 生産林業所得統計報告書」
	海面漁業生産額 対平成22年比 指数(H22=100)	43.5 平成25年の本県海面漁業生産額 79億円 平成25年の本県海面漁業生産額79億円 / 平成22年 181.8億円 「農林水産省 海面漁業生産統計調査」
	営農再開可能面積の状況 営農再開が可能な農地面積	33.3% 平成27年7月時点 営農再開が可能な農地面積(H27年度未見込) 1,820ha / 東日本大震災に伴う津波被災農地面積(旧警戒区域含む) 5,460ha
	農業経営体の再開状況 営農を再開した経営体	60.9% 平成26年3月時点 営農を再開した経営体 10,500経営体(※一部再開含む) / 東日本大震災による被害のあった経営体 17,200経営体
	漁業経営体の再開状況 操業を再開した経営体	41.1% 平成27年5月時点 操業を再開した経営体(試験操業を含む) 304経営体 / 東日本大震災による被害のあった経営体 740経営体
	農地・農業用施設等の復旧工事の状況 工事着手 工事完了	83.4% 平成27年12月時点 農地・農業用施設等の復旧工事着手 2,651地区 / 査定完了 3,180地区
商工業	有効求人倍率 有効求人倍率	1.41倍 1.41(倍) 平成26年の有効求人倍率 1.41倍(全国平均1.09倍) 「厚生労働省 一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	大型小売店販売額 対平成22年比 指数(H22=100)	112.4 112.4 平成26年の大型小売店販売額 2,511億1千5百万円 平成26年の大型小売店販売額2,511.15億万円 / 平成22年 223,494百万円 東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」
	鉱工業生産指数 対平成22年比 指数(H22=100)	92.7 92.7 平成26年の鉱工業生産指数 92.7(H22=100) 「福島県鉱工業指数年報」
	工場立地件数 対平成22年比 指数(H22=100)	190.5 190.5 平成27年の工場立地件数 80件 平成27年の工場立地件数80件 / 平成22年 42件 「福島県企業立地課(工場立地状況について)」
	県内製造業製造品出荷額 対平成22年比 指数(H22=100)	99.9 99.9 平成26年の県内製造業製造品出荷額 5兆9,411億円 平成26年の県内製造業製造品出荷額5,941.1億円 / 平成22年 50,957億円 「工業統計調査」
観光	観光客入込数 対平成22年度比 指数(H22=100)	82.0 82.0 平成26年の観光客入込数 4,689万3千人 平成26年の観光客入込数4,689.3千人 / 平成22年 57,179千人 「福島県 観光交流課(観光入込状況)」
	教育旅行宿泊延べ人数 対平成22年度比 指数(H22=100)	49.4 49.4 平成26年度の教育旅行宿泊延べ人数 350,704人泊 平成26年度の教育旅行宿泊延べ人数350,704人泊 / 平成21年度 709,832人泊 「一社福島県観光産業交流協会(教育旅行入込調査)」

項目		復旧・復興の状況		備考	
道路・海岸・鉄道等	公共土木施設等災害復旧	【着工】	93.6%	工事着手1,996か所/海岸、道路、港湾、漁港等施設の災害復旧を要する箇所2,133か所(査定継続実施中)(H27.12.31現在)	避難指示解除準備区域及び居住制限区域は、既に災害査定が終了している。帰還困難区域では、国が行う除染などと調整を図りながら進めていく予定。
		【完了】	78.7%	工事完了1,678か所/海岸、道路、港湾、漁港等施設の災害復旧を要する箇所2,133か所(査定継続実施中)(H27.12.31現在)	
	海岸施設(堤防等)の復旧	【着工】	94.2%	海岸施設(堤防等)復旧着手地区81地区/被災海岸86地区(査定継続実施中)(H27.12月末現在)	同上 (平成31年度完了見込)
		【完了】	12.8%	海岸施設(堤防等)復旧完了地区11地区/被災海岸86地区(査定継続実施中)(H27.12月末現在)	
	防災緑地の整備状況	【着工】	100.0%	工事着手地区数10地区/工事地区数10地区(H27.12月末現在)	防災緑地10地区[新地町(埼玉地区)、相馬市(原釜尾浜地区)、広野町(浅見川地区)、いわき市(久之浜地区、四倉地区、沼ノ内地区、薄磯地区、豊間地区、永崎地区、岩間地区)](平成31年度完了見込)
		【完了】	0.0%	工事完了地区数0地区/工事地区数10地区(H27.12月末現在)	
	海岸防災林の再生・復旧	【着工】	77.8%	工事に着手した地区7地区/計画決定防災林9地区(H27.11月末現在)	計画決定防災林9地区(相馬地区、鹿島地区、原町地区、小高地区、浪江地区、楡葉地区、いわき地区、双葉地区、富岡地区) ※うち相馬、鹿島、原町、小高、浪江、楡葉地区で着工。いわき地区が完了。(平成32年度完了見込)
		【完了】	11.1%	工事が完了した地区1地区/計画決定防災林9地区(H27.11月末現在)	
	常磐自動車道	【着工】	100.0%	着工延長128km/総整備延長128km(県内延長)	・浪江IC～南相馬IC、相馬IC～山元IC:平成26年12月6日開通 ・常磐富岡IC～浪江IC:平成27年3月1日開通
		【完了】	100.0%	開通延長128km/総整備延長128km(県内延長)	
	東北中央自動車道(福島～米沢間)	【着工】	100.0%	着工延長17km/総整備延長17km(県内延長)	・(仮)福島JCT～(仮)福島大笹生IC:平成28年度開通予定 ・(仮)福島大笹生IC～米沢北IC:平成29年度開通予定
		【完了】	0.0%	開通延長0km/総整備延長17km(県内延長)	
	東北中央自動車道(相馬～福島間) ※国道115号相馬福島道路	【着工】	100.0%	着工延長45km/総整備延長45km	・(仮)相馬西IC～(仮)阿武隈東IC:平成28年度開通予定 ・(仮)阿武隈東IC～(仮)霊山IC:平成29年度開通予定 ・相馬IC～(仮)相馬西IC:平成30年度開通予定
		【完了】	0.0%	開通延長0km/総整備延長45km	
JR常磐線運行状況		58.7%	現在の県内運転距離77.8km/県内運行距離132.6km	・帰還困難区域内運休距離20.8km ・広野～竜田駅間は平成26年6月1日運転再開 ・小高～原ノ町駅間は平成28年春頃運転再開見込 ・相馬～浜吉田駅間は平成28年12月末運転再開見込	
JR只見線運行状況		70.9%	現在の県内運転距離67.4km/県内運行距離95km		
集団移転	復興まちづくり(防災集団移転)	【着工】	91.5%	造成工事に着手した地区数43地区/集団移転促進事業計画について国土交通大臣の同意を得た地区数47地区(H27.12月末現在)	【着工(地区数)】新地町7、相馬市9、南相馬市21、楡葉町2、いわき市4 【完了(地区数)】新地町7、相馬市9、南相馬市21、いわき市4
		【完了】	87.2%	造成工事が完了した地区数41地区/集団移転促進事業計画について国土交通大臣の同意を得た地区数47地区(H27.12月末現在)	
医療・福祉施設	病院(休止病院の再開状況)		14.3%	再開した病院 1施設/震災後休止した病院 7施設	・帰還困難区域内の病院 3施設 ・避難指示解除準備区域内の病院 3施設 ・居住制限区域の病院 1施設
	社会福祉施設(高齢者施設・保護施設の再開状況)		68.6%	再開施設 24施設(仮施設等で再開した9施設含む)/震災後休止した施設 35施設	避難指示区域内市町村の施設で別の場所で再開した施設数 ・帰還困難区域 5施設 ・避難指示解除準備区域内 3施設 ・居住制限区域 1施設
	児童福祉施設(認可保育所の再開状況)		60.0%	再開施設 15施設(別の場所で再開した4施設含む)/震災後休止した施設 25施設	避難指示区域内市町村の施設で別の場所で再開した施設数 ・帰還困難区域 1施設 ・避難指示解除準備区域内 1施設 ・居住制限区域 2施設
学校	県立学校の復旧状況		98.8%	完了数 979件/被災施設数 991件(94校)(H27.12.1現在)	原発事故による避難指示区域に存する7校(被害調査未了)を除く。

* 避難指示区域の状況は平成27年9月5日現在の状況である。

- ・帰還困難区域(南相馬市一部、大熊町一部、富岡町一部、浪江町一部、双葉町一部、飯館村一部、葛尾村一部)
- ・居住制限区域(南相馬市一部、大熊町一部、葛尾村一部、富岡町一部、浪江町一部、飯館村一部、川俣町一部)
- ・避難指示解除準備区域(南相馬市一部、川俣町一部、大熊町一部、富岡町一部、浪江町一部、双葉町一部、川内村一部、飯館村一部、葛尾村一部)

New 「福島県復興計画(第3次)」

復興の現状を分析して、今後の復興の取組を分かりやすくまとめました。

[福島県復興計画](#) [検索](#)

その他の統計情報はこちらから

ふくしま統計情報BOX [検索](#)

震災・原子力災害、復興情報を知りたいときは

ふくしま復興ステーション [検索](#)



お問い合わせ先

福島県 企画調整部 復興・総合計画課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号 Tel 024-521-7109
E-mail sougoukeikaku@pref.fukushima.lg.jp

詳しくは、ホームページをご覧ください。

[福島県 復興のあゆみ](#)

[検索](#)